

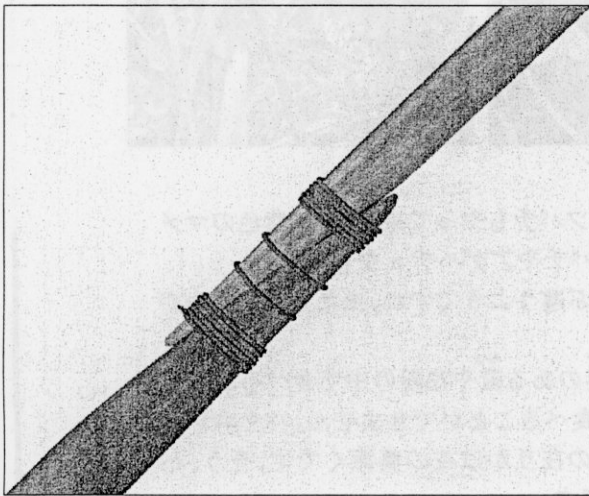
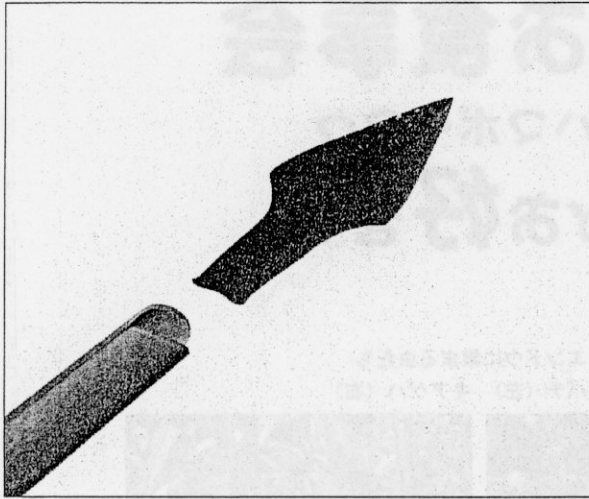


歴史のドアを開けよう

Natural History
第33回

いしかり博物誌

■文化財・博物館開設準備室 ☎0133-72-6123
E-mail:bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp



何気なく、横目で見ながら通り過ぎようとしてもなんだか気になってもう一度見たら、それが意外な発見につながったという経験はありませんか？

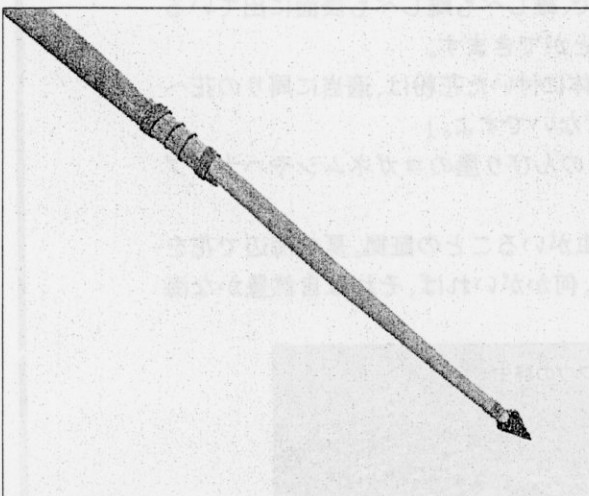
先日、紅葉山49号遺跡の木製品の整理をしていて、どうも気になる先端に切れ込みがある木製品もりがあったので、もう一度よく見直してみたら、なんとそれは鉾もりの柄でした。しかもこの木製品は図のように複数の柄を組み合わせる形式の鉾の一部と考えられます。このタイプの鉾は、投げて使用するもので獲物に刺さったらこの部分だけが残る離頭鉾と呼ばれるものです。離頭鉾は、一般に大型の魚や海獣に用いられる場合が多く、このことはこの遺跡の人々がサケマスだけでなく、石狩川本流から海に出て漁または狩猟をしていた可能性が高いことを示しています。残念ながら今のところこの鉾でどんな獲物を獲っていたか不明です。ただ、49号遺跡ではクジラの骨をはじめ数種類の動物骨がありますので、このなかに離頭鉾で獲られた動物が含まれている可能性もあります。

鉾の柄の先端には長さ4～5 cmヤジリ以上で、重さ10 g前後の石鉾と呼ばれる大型の柄のある鏃やじりがつけられたものと見られます。このタイプの鏃は縄文時代中期になると全道的に増

もり

新たに見つかった鉾の柄

— 49号人は海でも漁をしていた？ —



■実物から復元した離頭鉾の図（上から先端部・接合部・全体）

える石器で、49号遺跡でもこれまで数十点出土しています。その多くは黒曜石製です。本遺跡の場合、使われた黒曜石はその特徴から後志管内赤井川村産と考えられます。

ところで49号遺跡ではもう一種の鉾があります。これもつい最近、確認されたものです。これは鉾先と柄が一体で固定鉾と呼ばれるものです。こちらの方は、手に持って突くタイプです。確認されたのは、長さ約160 cm、太さ2 cmのもので、これも石鉾を先端の切れ目にはさんで使用したものだと思われます。固定鉾は鮭などに使われたものでしょう。これらのことから49号遺跡では、川と海で漁業や狩猟活動が行われていたことが推定されます。ちなみに木製の離頭鉾の柄が出土したのは、縄文時代では初めてのことと思われます。

（石橋孝夫）